

議会だより つしま

No.7

2020

2月

令和2年



私たちはこの笑顔を守ります

「さす農業秋穫祭」

- ★12月定例会あらまし・委員会審査報告……2
- ★会派代表質問……………3～4
- ★定例会一般質問・決算審査特別委員会レポート4～6
- ★所管事務調査報告・市民との対話集会 7～8
- ★委員会調査報告・行政視察報告……9～10
- ★編集後記……………10

発行：対馬市議会

編集：対馬市議会広報編集特別委員会

〒817-1201 長崎県対馬市豊玉町仁位380番地

TEL 0920-58-1379 FAX 0920-58-1018

E-mail t_gikai@city-tsushima.jp



12月定例会あらまし

12月定例会は、12月3日から12月13日までの11日間の会期で開かれました。今定例会には、令和元年度一般会計補正予算ほか、対馬市会計年度任用職員制度の導入に伴う関係条例の整理に関する条例等54件が提出され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり認定、可決、同意となりました。

会派代表質問は3会派、市政一般質問は6人が登壇し、活発な議論が展開されました。

◎主な議案

○平成30年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定についてなど決算案9件

○令和元年度対馬市一般会計補正予算（第5号）など補正予算案8件

○対馬市選挙公報の発行に関する条例の一部を改正する条例についてなど条例改正案及び条例制定案11件

○対馬市コミュニティセンターの指定管理者の指定についてなど議決案10件

○対馬市農業委員会委員の任命についての同意案15件

○その他、請願1件

委員会審査報告

議会において、提出された議案等を慎重に審査するため、所管の常任委員会に付託することができま。各委員会は、付託された議案等を詳しく審議し、議案等の可否を採決し、委員会としての意思を決定します。委員長は、審査報告書を議長に提出し、本会議において報告をします。今定例会においては次のとおり審査報告がされました。

総務文教常任委員会

委員長 坂本 充弘

◎付託された案件(5件)

①令和元年度対馬市一般会計補正予算(第5号)

②対馬市会計年度任用職員制度の導入に伴う関係条例の整理に関する条例

③対馬市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例

④対馬市会計年度任用職員であるスクールソーシャルワーカーの報酬及び費用弁償に関する条例

⑤対馬市仁田ダム運動公園の指定管理者の指定について

◎審査内容

○議会費、総務費、消防費、教育費、災害復旧費、諸支出金に係る補正予算が計上され、地方バス路線維持費補助金、博多・比田勝航路維持費補助金、桧原地区排水路整備工事請負費、博物館建設工事費、対馬市CATV佐護サブセンター被災復旧修繕料の追加等について、審査を行いました。また、令和2年4月1日から会計年度任用職員制度が導入されることに伴い、関係条例の整理及び必要な事項を定めるため条例を制定しようとするもので、その内容について審査を行いました。

厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

◎付託された案件(2件)

①令和元年度対馬市一般会計補正予算(第5号)

②対馬市会計年度任用職員である医師の給与及び費用弁償に関する条例

◎審査内容

○総務費、民生費、衛生費に係る補正予算が計上され、東里庁舎に係る浄化槽破砕機取替に伴う修繕料、保育所の副食費無償化に伴う施設型給付費、

使用済み自動車の島外搬出に係る海上輸送費補助金の追加等について、審査を行いました。また、令和2年4月1日から会計年度任用職員制度が導入されることに伴い、任用根拠の適正化を図るため、必要な事項について条例として制定しようとするもので、その内容について審査を行いました。

産業建設常任委員会

委員長 長郷 泰二

◎付託された案件(4件)

①令和元年度対馬市一般会計補正予算(第5号)

②体験であい塾匠の指定管理者の指定について

③対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定について

④観光情報館ふれあい処つしまの指定管理者の指定について

◎審査内容

○農林水産業費、商工費、土木費、災害復旧費に係る補正予算が計上され、台風等により被災した農業施設等の修繕費補助金、イノシシ捕獲補助金、離島輸送コスト助成事業補助金、台風等により被災した農林道、市道、河川の災害復旧工事の追加予算等について、審査を行いました。また、令和2年3月31日をもって指定管理期間が終了する各施設について、申請及び審査の結果、各候補者の選定について説明を受け、その内容について、審査を行いました。

3月定例会のお知らせ

令和2年第1回定例会は、3月5日(木)に開催を予定しています。

※日程は、3月3日に開催される議会運営委員会で協議された後、ケーブルテレビ、議会ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

会派代表質問

会派代表質問とは、会派を代表して行う質問のことです。対馬市議会では、3月・12月の定例会において行っています。質問時間は、所属議員数で算定し、90分を限度としています。その時間内で関連質問も認められています。

対馬市議会には、4会派がありますが、今回は3会派が質問を行いました。

新政会

山本輝昭議員・伊原 徹議員

◆強靱な「しまづくり地域」づくりについて

(山本) 集中豪雨による道路等の崩壊や河川氾濫による甚大な被害が発生している。本市の防災・大雨等における警戒体制について伺います。

①台風、大雨等における警戒体制について

(市長) 警報発令後、災害対策警戒本部を設置し、庁舎に20名の職員配置による警戒体制をとっている。災害時は自主避難所を市内各所に開設している。

②対馬市国土強靱化地域計画策定状況について

(市長) 今年度中を目途に地域計画を作成することで作業を進めている。

③河川改修の現状と完成予定について

(山本) 佐護川氾濫による家屋の浸水、国市道への冠水対策については。

(市長) 県事業で、市内5カ所の2級河川整備が完了し、現在は、4河川で事業継続、次年度は1河川の整備事業が予定されている。

(山本) 事業推進と早期竣工に向けて用地交渉の取り組みについては。

(市長) 本市の特徴として、入会地の共有名義が多数を占め、登記完了まで相当の時間を要しているが、市と県が一体となり、事業の早期推

進に向けて取り組みたい。

(伊原) 日本遺産及びユネスコ記憶遺産登録を機に、歴史的魅力の発信と誘客のための観光産業の取組みについては。

(市長) 対馬の歴史に関して、金田城や神社めぐりツアーをはじめ、城下町散策などが、国境離島交付金での「しま旅」商品として商品化されている。対馬観光のあり方検討会では、本市の史実の特徴である、大陸との交流の歴史や、砲台跡・城下町などの磨き上げが必要との意見が出されており、この内容を提言書にまとめ、対馬観光振興計画に反映させる予定としている。

(伊原) 観光地を含めた国道等未改良区間が多い。災害時の交通アクセス寸断を想定し、強靱な「しまづくり地域」づくりの施策として、迂回路や循環道の整備計画はないか。

(市長) 縦貫道の国道や県道・市道の幹線が被災を受けた場合、迂回路がない。その解決策として、県に対してダブルネットワーク構想を要望した経緯があるが、実現には莫大な費用と時間を要するため進んでいない。市道・林道については、観光地へのアクセス道路と併せて地域再生基盤強化交付金事業の活用ができないか検討したい。

清風会

浏览 清議員・大浦孝司議員

◆激減する韓国観光客への対応について

(浏览) 現今の対馬の経済は最悪の状況にあると云わざるを得ない。農林業を含め、近年の水産業の衰退には目を覆うばかりの状況にある。加えて、7月から日韓の国交の不具合から韓国観光客が激減して、釜山・対馬間の定期航路開設後20年、ようやく韓国観光客の来島は500万人を突破、年間40万人超を記録し、年間100億円の経済効果をもたらしていた観光産業はお先真つ暗の状況である。この危機的な対馬の経済を脱却する緊急的対応策についてお尋ねする。

(市長) 現在、比田勝港のみに入港している韓国船を、厳原港にも入港させて厳原イン比田勝アウト、比田勝イン厳原アウトの体系を実現させるため最善を尽くしたい。

(浏览) 韓国観光客が激減してから既に半年が経過している。緊急的・超積極策でこの難局を乗り切られることを強く要望する。

(大浦) 9月定例会で質した、県とタイアップした宿泊料割引並びに融資の対応について、執行状況の報告をお願いしたい。

(市長) 宿泊料割引クーポン券の執行状況は44パーセント、滞在型観光促進事業は3千255人誘致しており、今後も事業の拡大を進めていく。融資制度の活用状況は、県の制度資金は数件で、政府金融公庫には数十件の申し込みがされており、市では、一部利子補給をするようにしている。

(大浦) 確認したところ、県の緊急資金繰り支援資金の実績は、3件の9千万円、日本政策金融公庫では、21件の1億2,000万円と聞いている。この利子補給についての市の対応策を伺いたい。

(市長) 市として利子補給を10パーセント予定している。

(大浦) 国内外に対して、市の動きがあれば教えていただきたい。

(市長) 11月26日に韓国釜山市で、対馬観光レセプションを開催し、大亜高速海運など5社にこれまでの功績をたたえる感謝状を贈り、現地の航路事業者や旅行代理店に対し誘客についてお願いしている。

創政

長郷泰二議員・上野洋次郎議員・黒田昭雄議員

◆市長の市政に対する取組みについて

(長郷) 現在の各産業は憂慮すべき状況にあり、従来の考えでは対応が難しいと考える。特に第一次産業及び観光部門には専門的知識を習得し

た職員を採用すべきと考えるがいかがか。

(市長) 現在の職員採用試験の在り方では難しいと考える。採用した職員の養成に努めたい。将来的には検討すべき課題だと考えている。

(長郷) 長田川の改良計画のため、来年度予算化する考えはないか。

(市長) 予算化については予定していないが、水衝部や危険箇所は、単独災害として対応していきたい。

(長郷) 空き家対策の状況については。

(市長) 市の空き家対策計画を今年度中に策定予定としている。

(長郷) 人工透析患者の送迎対策については。

(市長) 実態調査を行い、現在は、上対馬病院に通院されている3人の方が利用している。今後引き続き調査を行い対応していきたい。

(長郷) 屋外広告物に関する条例制定の動向については。

(市長) 先進自治体の調査、ハングル表記看板については、関係者協議を実施してきた。規制地域の拡大は、当面は都市計画区域内において、県の条例に基づき事務を行い、同意を得られた重点景観区域から今後拡大していきたい。

(長郷) ジェットフォイルの建造対策の動きについてはいかがか。

(市長) 長崎県及び国会議員に対して、機会あるごとに要望活動を行っている。

(上野) 厳しさを増す沿岸漁業の状況に対し、水産振興施策として、漁業用燃油対策事業を実施し、各種の漁業経営を支えるべきではないか。

(市長) 水産業が非常に厳しい状況であることは理解している。漁協長会等の意見を聞きながら、有効かつ効果的な支援策について引き続き検討していきたい。

(黒田) インターネットの通信速度について今後の対策は。

(市長) 通信事業者と指定管理者、市の3者の準備が整い次第、今年度末までに島内10Gbpsまで対応すべく、接続が完了できるよう進めている。

一般質問 ここが聞きたい

12月定例会一般質問 6人の議員が市政に対する一般質問を行いました。



一般質問とは

議員が議長の許可を得て、市長等に対し、市の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等についての所信や疑問を質し、報告や説明を求めるものです。

一般質問を行う場合は、通告書に要旨を記入し、事前に議長に提出します。

一般質問の時間は質問と答弁を合わせて50分以内としています。



小島 徳重議員

◆市長の政治姿勢・公約について

(小島) 市長選挙においてマニフェストを提示されるか否か。

(市長) リーフレット等、

準備している。

◆藻食性食害魚の駆除・食品化について

(小島) ①効果的な駆除法を普及すべきでは。

②駆除後の食品化へのネットワークが必要。行政が果たすべき役割は。

③小・中学校で「海に関する学習」を充実すべきでは。

(市長) ①全体における活動組織率は40パーセントにとどまる。対策研修会を継続、地域間の連携を図り、広域的に取組む。

②イソズミの食品としての有効活用は、今後、加速する。食材の安定供給体制を確立する。国、県と具体的に協議し、独自の支援策も含めて積極的に推進していきたい。

③教育委員会と連携して、教育・学習分野の体験・啓発学習を進めていきたい。

(教育長) ③地域の実情に応じ実施している。

◆子育て支援の充実について

(小島) 対馬市における「新・放課後子ども総合プラン」の整備計画はどのように進めているか。

(市長) 現在、策定中の第2次「子ども・子育て支援事業計画」に内容を盛り込む予定。学校施設の積極的な活用は、教育委員会と連携して保護者のニーズに応じて柔軟に対応する。

(教育長) 「放課後子ども教室」は、3カ所を実施。市内全域の展開には至っていない。新規開設希望について周知している。



春田 新一議員

◆本市の防災減災対策について

(春田) 近年、気候変動の影響などにより、想定を超える自然災害が多発し、激甚化する中で、住民の生命、財産を守るため、民の生命、財産を守るための両面での防災、減災対策が緊急の課題であるが、基本的な考えについて伺いたい。

(市長) 自分の命は自分で守る自助、地域の協力は共助で、公助は、消防団や消防署、関係団体と連携して地域防災に力を入れて取り組んでいきたい。

(春田) これからは、防災という発想で、より多様な災害を想定し、災害の状況や新たな知見に基づく災害予測等を踏まえ、様々な災害への対策案を検討していく必要があると考ええるが、行政が取り組む災害防止策の考えはないか。

(市長) 国土強靱化地域計画について、今年度中の作成に取組む。また、河川の河床掘削等の十分な調査をしながら減災に繋がるよう進めていきたい。

◆障害者、健常者誰もが安心して暮らせる共生社会の本市の取組みについて

(春田) 発達障害について、発達に心配のある子ども、発達障害の子どもへの療育支援策についての考えはないか。

(市長) 放課後等の教育に取組む支援をしている。利用者負担を軽減するため、発達障害事業所等へ送迎支援を行っている。

(春田) 県内では多くの特別支援学校、あるいは分校、分教室が開校されているが、本市にも特別支援が必要な小学生68人、中学生22人の子どもたちが教育を受けている。対馬にも、その子どもに合った特別支援学校が必要と考えるが、開校に向けての取組みの考えはないか。

(教育長) 特別支援学校の設置は考えられるが、県の教育委員会と協議が必要。また、支援が必要な子どもが2倍から3倍に増えている。開設に向けて県へ働きかけをしていきたい。まずは、重度障害のある子どもの実態調査に取組みたい。



伊原 徹議員

◆久田幼稚園跡地を活用した児童公園整備について

(伊原) 児童・園児及び保護者が集うふれあいの場として、児童公園整備ができないか。

(市長) 利用者の見込み、現存遊具の安全性や新たな遊具の設置の要否、また、施設の運営等関係部署で協議を進めている。

◆健康づくり・介護予防推進のための専門部署の再編

(伊原) 年々、増加する高齢化社会に向けて、健康づくり・介護予防推進のため、健康づくり推進部と福祉保険部が一体となった専門部署再編のお考えはないか。

(市長) 本市の高齢人口は、2020年をピークに減少見込みであるが、働き世代が減少に転じるため、高齢化率は高まると予測している。このため、高齢者の保健医療・介護予防等が一体となった取組みに向けて組織の見直しを視野に入れて研究したい。

◆市立いづはら診療所機能と移転への提言

(伊原) 高齢者の健康づくり・介護予防推進の拠点化として、いづはら診療所の利便性を高めるため、平地への移転の可能性はないか。

(市長) 高齢者の通院の利便性としては市街地への移転が望ましいが、適切な立地がない。市内では3カ所の開業医院で地域医療を担っているため、現在地で診療科を増やすなど、更なる診療機能の強化に努めたい。



坂本 充弘議員

◆漁業振興対策について

(坂本) 現在の取組状況と今後の振興対策は。

(市長) 国・県の補助事業による有効活用と市独自の支援策として「対馬市漁業あととり育成事業」や「競争力強化型機器等導入緊急対策事業」他、補助金等の支援を実施している。今後の振興対策としては、補助事業では内容の拡充、新規事業の創設等、支援内容の充実が図られている。クロマグロ漁獲規制によるイカの漁獲量減少は国も因果関係を調査する方針。今後もマグロ漁獲量の増枠や支援拡充について、国や県へ要望を継続していく。藻場再生を加速し、国のフロンティア漁場整備事業の実施、県と市で一体的な漁場整備を図る。水産物輸送コスト助成事業は継続し、水産業の振興に努めていく。

◆街灯の設置について

(坂本) 三字田に東横インがオープンした。泉トンネル三叉路までの街灯設置が必要ではないか。

(市長) 三字田浜周辺は多くの観光客が散策し、市民のウォーキングコースとして利用も多い。市道三字田線は防犯灯もなく夜は暗い。来年度に街灯を設置し、安心安全のまちづくりに取組む。

◆交通安全対策について

(坂本) 道路標示・白線が消えている。再点検後、早急に修復をすべきではないか。

(市長) 供用開始から数十年が経過していることもあり、区画線の大半が劣化し消えている状況は確認している。今年度から3カ年計画で補修を実施し、適切な維持管理に努めていく。

素の排出量の削減、廃食油の分別等、平成24年
から実験的に開始している。

◆生ごみ回収事業について

(吉見) 生こみ回収事業の当初の計画と目的及びアンケート調査について伺いたい。

素の排出量の削減、廃食油の分別等、平成24年から実験的に開始している。

(吉見) 堆肥はできているのか。
(市長) 成分を分析しているが、良い堆肥はできない。今後、堆肥の製造に向け努力していく。

(吉見) 焼却施設の経費削減については、生み出した利益を、委託料、維持管理費、バケツ代等、毎年約4千300万円の経費がかかっている。決して経費削減にはならない。

(市長) 燃料消費額を少なくすることが、焼却施設の長期運用に必要と捉えている。

(吉見) 二酸化炭素排出量の削減については、炭素は出ているが樹木が吸収し、酸素を排出、空気を浄化している。また、焼却炉の耐用年数は15年とのことであった。

(市長) アンケート調査の主旨は、生ごみに対して市民皆様がどのように考えているのか、また、分別回収の現状把握と今後のあり方など。

本事業をより良い方向へと展開するため、全戸調査を実施している。50年に一度の大雨が対馬においても3回も降る状況であり、今後においても、ごみの発生抑制や資源化を推進し、減量化による経費節減と温室効果ガスの原因となる二酸化炭素の排出削減を図るため、経費はかかるが、本事業は重要な施策と捉えており、継続

◆対馬島誌の発行について
(吉見) 前回の発行から55年経過している。対

馬市誌として発行すべきではないか。
（教育長）合併後の「対馬市誌」の編纂については、今後の市政運営の上で検討すべき時が出てくると思うが、現時点では旧町時代に発行された各町誌などを活用いただきたい。



県道厳原豆酸美津島線、吹崎工区は入会林野が存
在しており、この整備計
画が対応していた。平成21
年3月末が登記手続

◆主要地方道 厳原豆酸美

津島線 改良に伴う（加
志（箕形）入会林野の整
備について
（大浦）旧美津島町管内

県道巖原豆酸美津島線、吹崎工区は入会林野が存
在しており、この整備計
画が対応していた。平成21
年2月3月末が登記手続

10年の歳月を経過して
 いるがどうか。
 林野の整備は、確認書が
 付添い期間を要する。

は、その位の期間でできる

業するべきではなかった

により、県道改良計画は海

これが、今や中部、南部にも

きと思われるが、

果、環境省への財政支援要

地方環境事務所・野生生物
定外来生物は全滅させる方
こであった。万一、隣の
上へ広がれば、日本みづ

6

所管事務調査報告

常任委員会では、条例案その他議案の立案のためや問題点のある事務の改善を究明するため自主的にテーマを設定し、調査を行うことができます。調査結果については、報告書を議長に提出し、本会議において報告します。今定例会においては次のとおり調査報告がされました。

厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

本委員会は、令和元年10月29日に、雞知保育所及び厳美清華苑の現状と課題について、現地調査を行いました。

雞知保育所は、定数143人に対して0歳児から5歳児まで児童数は144人、代替及び保育補助を含め21人体制で保育業務に携わっています。乳児室2部屋、保育室が4部屋あり、その内の1部屋は平成27年10月から遊戯室と兼用となっています。



説明を受ける厚生常任委員（雞知保育所）

すが、雨天時など、室内で遊戯活動をする場合、その部屋では一部しか使用できないという弊害が生じています。

また、児童の荷物保管場所や手洗い場などが完備されていない等、保育室としての使用には不便である旨の説明がありました。

厳美清華苑は、平成14年4月に稼働を開始した汚泥再生処理センターですが、近年の観光客増加や大型施設の建設等に伴い汚水搬入量が増加したため、平成28年10月から厳原町及び美津島町の汚水の一部を対馬中部クリーンセンターへ搬送し、処理軽減を図っています。今後、施設の老朽化や汚水量の増加を踏まえ、今年度において、設備補修及び浄化槽汚泥増量工事を含めた基幹改良工事を行うとの説明がありました。

また、厳美清華苑で生産されている汚泥堆肥「ありねよし1号」は、1袋が12kgで、1日に約40袋、1カ月で約800袋が生産されています。1袋100円で販売していますが、生産数に対して販売数が少ないことから、汚泥堆肥の使途については、早急に対策を講じるべきとの意見がありました。

現地調査終了後、委員会を開催し、雞知保育所の保育室と遊戯室が兼用では、屋内での遊戯活動の際、児童の利用に制限があり、児童数に応じた増築等を含めて、あらためて遊戯室を確保するべきではないか。また、有資格者の異なる勤務要件解消に向けて、幼稚園の活用及び民営化も含めて施設運営を考える必要があるとの意見がありました。次に、厳美清華苑の汚泥堆肥の在庫状況について、需要と供給のアンバラ

ンスから、今後も在庫が増えていくことが見込まれることから、無料配布について検討してはどうかとの意見がありました。

産業建設常任委員会

委員長 長郷 泰二

本委員会は、令和元年11月5日、国県市道の整備状況に関する調査・研究として所管事務調査を行いました。

一般国道382号線、緒方口～大船越区間、小船越～畠浦口区間の進捗状況、主要地方道の加志～箕形区間の改良計画について担当部署から説明を受けました。

【緒方口～大船越区間のルートに対する考え方】本区間は、ゴルフ場の建設計画が存続し、既に用地買収されていますが、用地交渉の余地はないのか、新たなルートの考えはないものか等々の意見がありました。今後は、所有権移転状況を精査し、可能性を探っていき、早期の着工に向けて、お互い努力・協力し、推進していきたいと考えます。

【小船越～畠浦口区間の入会林整備に関する進捗状況】本区間は、入会林未整備のため、長らく着工することができていません。平成30年6月15日に対馬振興局に認可申請の事前審査をお願いしているとの報告ですが、進展はなく現在に至っています。この道路の重要性を考えると、本委員会としても最大限の協力は惜しみません。一刻も早く着工できるよう努力されることを強く要望いたします。



説明を受ける産業建設常任委員（市道久田日掛線）

【主要地方道厳原豆酸美津島線、加志く箕形区間の改良計画】本区間は、着工に向け進展していますが、箕形・吹崎間のトンネル工事予定地の地質調査の結果、改めて調査が必要となりましたが、本年度中に設計が完了すべき努力をしていただいているところであります。また、吹崎・加志間の改良計画箇所もトンネルによる改良が予定されており、現在、地質調査を行っているとの説明がありました。

なお、委員から、入会林については、多くの時間を要する事務であり、必要な人員を配置し、迅速な対応ができる体制を構築されるよう要望する旨の意見がありました。

市民との対話集会



議会報告会を開催しました。

期 日
令和元年10月26日(土)

内 容
①議会からの報告
②意見交換会

場 所
下地区(美津島文化会館)
中地区(仁位生活館)
上地区(ティサービスセンター御嶽の里)

参加人数
下地区 12人
中地区 6人
上地区 4人

対馬市議会では、市民の皆様を開かれた議会を目指し、議員が地域に出向き、議会としての考え方や活動内容などを報告する「市民との対話集会」を3カ所で開催しました。

議会報告会で寄せられたご意見は、とりまとめ、議会で対応を協議し、今後の政策立案や議会活動に生かしていきます。

たくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございました。

委員会調査報告

常任委員会では、委員会が抱える行政課題の解決又は事務事業の比較調査、政策研究のため、先進的な取組を実施している他の自治体などの視察を行います。

調査報告については、報告書を議長に提出し、本会議において議員配布となります。今定例会においては、次のとおり調査報告が行われました。

■総務文教常任委員会

委員長 坂本 充弘

本委員会は、国史跡に指定されている対馬藩主宗家墓所及び隣接する金石城跡や対馬藩関連遺産群等の保存整備について、同じ日本三大墓地の一つとされる萩の毛利家墓所及び萩城跡指月公園と周辺城下町の保存状況や問題点、文化財等の保護について調査するため山口県萩市へ、また、対馬博物館の開館を控えていることから、展示物管理・運営等について調査するため、下関市立歴史博物館を視察し、調査を行いました。

山口県萩市では、萩藩主毛利家墓所、萩城跡指月公園と周辺城下町の現状及び問題点、文化財等の保護について説明を受けました。菩提寺建造物は、いずれも雄大な規模を誇るが、老朽化が進んでいること、観光地として雑草雑木の除去作業はできるだけ早く行っていること、周辺の城下町は、条例ではなく、文化庁の文化財

保護法によって規制されているため、建築の際は、景観に調和した色合いを使用する等のお願いをしているとのことでした。

山口県下関市では、下関市立歴史博物館展示物の管理及び運営について説明を受けました。旧長府博物館の狭隘、展示環境の老朽化などの理由により、新博物館の基本構想の策定、PFI手法による建設計画の策定、建設予定地の選定等を経て、平成28年11月18日に下関市立歴史博物館が開館。当初、指定管理者制度も検討され、事業期間は5年間、事務職員・受付等は指定管理者が雇用、学芸員は市が雇用するというものでしたが、指定管理者の担い手が不足しており、公募しても複数の応募者が得られない可能性が高く、学芸員と指定管理者の連携が有機的に行えない場合等、展示の質の低下、健全な運営管理が行えなくなる等の理由から、市の直営となっています。中でも展示物・資料等の保存環境には十分に配慮し、設計時から文化庁と再三協議し、東京文化財研究所に空気環境（有機酸・アンモニア等）の調査及び助言を依頼、連携しながら適正化を図ったとのことでした。また、周辺景観への配慮があり、建物の高さ制限や圧迫感など、既存の環境に影響を及ぼさない配置、近隣住民等に配慮した施設であることを踏まえて、観光客や市内の小・中学生、地元住民をはじめ、多くの市民誰もが気軽に訪れ、下関の歴史に触れる施設を目指しているとのことでした。

今回の史跡遺産群の保存状況や問題点、文化財の保護、歴史博物館の管理・運営については、

本市にとって大変参考になるものであり、更なる調査研究を重ねていきたいと考えます。

■産業建設常任委員会

委員長 長郷 泰二

本委員会は、地域と一体となつて取り組むことができる事例等について、参考にすべく、バイオマスを活用した農林業タウン構想及びサバの完全養殖の取り組みについて、熊本県小国町、佐賀県唐津市を視察し、調査研究を行いました。

熊本県小国町では、北里柴三郎博士ゆかりの深い「木魂館」で木の駅プロジェクトを実施し、



説明を受ける総務文教常任委員（山口県萩市）

木質（薪）ボイラーの導入により、薪を燃焼させ生じた熱気によりお湯を沸かし、敷地内にある温浴施設や併設の食堂に供給されています。また、木質（チップ）ボイラーを利用している老人保健施設の敷地内に設置されている燃焼施設及び生ごみを利用した堆肥施設を視察し、説明を受けました。小国町は、平成25年度に国から環境モデル都市に選定され、平成27年度に、役場庁舎、公立病院、老人保健施設に対し、LED照明機器、太陽光発電設備を導入、また、町単独で、電気自動車の充電施設を整備しています。平成28年度に老人保健施設敷地内に木質（チップ）ボイラーを設置、老人保健施設と公立病院に対し、給湯と暖房に関する熱供給など、CO2削減に向けての取り組みを行っています。地産地消エネルギー、地元の経済が潤うことを目的として、平成28年8月に電力会社「ネイチヤーエナジー小国（株）」を設立、運営は電力会社に全面委託しています。「地域資源である地熱と森林を活かしたまちづくり」をテーマとした取り組みを提案、環境だけでなく、社会、経済を視野に入れた持続可能なまちづくり（SDGs）が評価され、平成30年6月「SDGs未来都市」に選定され、総理大臣官邸で認定証を授与されました。

佐賀県唐津市では、水産業活性化支援センターで、九州大学との共同研究により生まれた全国でも珍しいマサバの完全養殖の取り組みについて説明を受けました。唐津市は、九州大学と共同研究で「新水産資源創出プロジェクト」と題し、新しい水産資源の創出や、水産業の高

度化を目的に、海産魚の完全養殖技術と水産現場の技術的課題の解決や海産魚の品質改良に向けた基礎的な研究に取り組まれています。このプロジェクトで開発された技術をもとにして、産学官連携による付加価値の高い高品質の生産物を商品化し、地域水産業の活性化を目指しており、その結果「マサバの完全養殖」に成功しています。完全養殖のマサバは、甘みがあり、臭みがなく、一年中脂が多い、食中毒の原因となるアニサキス（寄生虫）のリスクを軽減できる等の特徴があります。なお、サイズは400g超え、単価は、1kg当たり2千円超えて取引されていました。

今回の調査内容は対馬市の振興にとって大いに参考となる部分があり、引き続き交流を図りたいと考えます。



説明を受ける産業建設常任委員（熊本県小国町）

編集後記

あけましておめでとうございます。
市民の皆様には、ご健勝にて輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は、5月1日に元号が改元され、皇太子さまが新天皇に即位、新しい「令和」の時代が始まりました。10月から即位に関する儀式が行われ、「即位礼正殿の儀」において、第126代の天皇即位を内外に宣言、世界の平和と我が国の一層の発展を願われました。祝賀パレード、大嘗祭に続き、その他一連の儀式もほぼ終了し、令和元年があつという間に過ぎていったような気がしました。

顧みますと、「令和元年」は、日韓関係の悪化により韓国人観光客が激減。東日本で台風大雨災害により河川が氾濫、犠牲者が相次ぎました。お亡くなりになられた皆様にご冥福と、甚大な被害にみまわれた皆様にご心からお見舞い申し上げます。沖縄で首里城が全焼。一日も早い復旧・復興を願うものであります。うれしいニュースでは、吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞。ラグビーW杯で史上初の8強入り。世界野球プレミア12では侍ジャパンが優勝、感動を与えてくれました。

新国立競技場が完成、今年には東京オリンピックピック・パラリンピックが開催されます。日本代表選手達の活躍を期待し、東京大会の成功を祈ります。

今後ともご愛読をよろしくお願いいたします。
（文責：坂本充弘）



広報編集特別委員会

【委員長】小島 徳重 【副委員長】黒田 昭雄
【委員】坂本 充弘・大浦 孝司